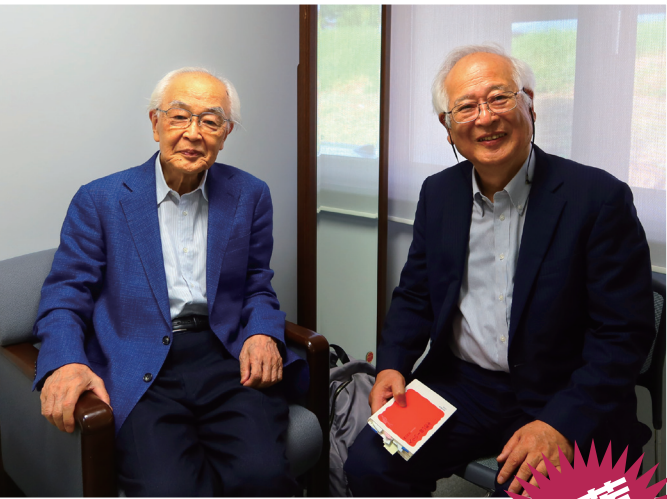


ヒロシマ

川越 厚 著

遡上の旅

父に捧げるレクイエム



被爆二世である著者は、30年あまり在宅ホスピスケアのあるべき姿を追求・牽引してきた医師として知られる。著者にとって懸案だったヒロシマと向かい合う旅が実現したのは2023年だった。被爆した父の足跡をたどるなかで、浮かんでくる風景とは何であったか。ホスピス医ならではの温かくも鋭い感性を背景に、思索を重ねた誠実な魂の記録。

●ノンフィクション作家

柳田邦男氏

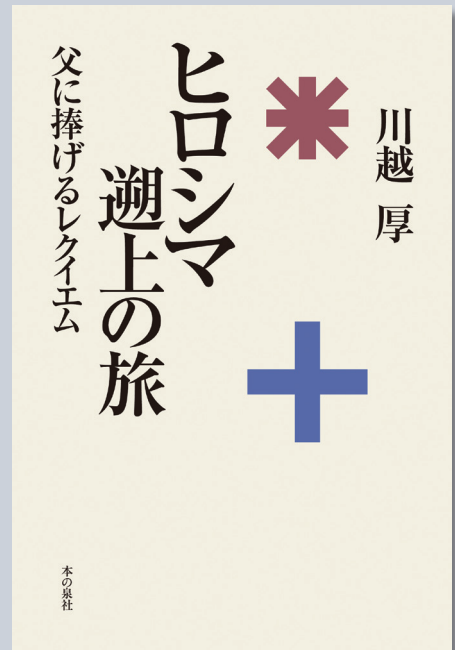
推薦!!

Contents

- I
遡上の旅へ
旅立ちの朝
八月六日の朝、父はいつもヒロシマにいなかった
戦地から帰ってきて被爆した陸軍将校
初めて参加した平和祈念式
もう一つの平和祈念式
- II
被爆時ピアノを弾いていた父
無音のなかでの神の臨在
目にした幽霊の行列
正視できない死体
被爆直後の二人の牧師
地獄からの脱出
絶望の中の希望

- III
グラウンドゼロ
原爆による祖母、叔母、赤ちゃんの死
父が会った被爆米兵捕虜
被爆死した米兵捕虜のために立てた卒塔婆
生存被爆者の苦しみ
生存被爆者に対する悲嘆のケア
- IV
戦後の政治情勢
生存被爆者のこころと平和運動のありよう
ベトナム戦争そして安田講堂事件
- V
ヒロシマから発生した平和のベクトル
平和への祈り
意味の見いだせない原爆死
死者の語りかけ
旅の終着

12月下旬刊行



四六判224頁/定価2100円(税込)

川越 厚 (かわごえこう) 在宅ホスピス医のパイオニア。

1947年、山口県生まれ。東京大学医学部卒業。茨城県立中央病院産婦人科医長、東京大学講師、白十字診療所在宅ホスピス部長、賛育会病院院長を経て、2000年、在宅ケア支援グループ・パリアン設立。同代表を経て2021年から在宅ホスピス研究所パリアン(北杜市)代表。森の診療所医師。「家で死にたい」(保健同人社)、「がん患者の在宅ホスピスケア」(医学書院)、「ひとり、家で穏やかに死ぬ方法」(主婦と生活社)など著書多数。

注文書

ヒロシマ遡上の旅
父に捧げるレクイエム

川越 厚 著

お名前

ご住所

電話番号

〒

冊